

クサムスビ

EXTRA
ISSUE



お寺でアート

オテラート

泉鏡花「天守物語」より

8月26日ー9月6日

八月二六日から九月十日まで
十六日間の日程でオテラート

金澤2017が金沢の十一のお寺を
会場に開催されました。今年のテー
マは「破壊と創造」。国内外の作家や
学生など約六十名の作品が展示され
ました。またワークショップなども
開催され、多くの方がアートを通し
てお寺に親しんでくださいました。

浄 光寺では、泉鏡花原作の戯曲
『天守物語』を題材に作品の

展示やお茶会が開催されました。沈
金師の芝山佳範さんと森山町小学校
の三年生約五〇名が一緒に作った手
毬や京都のイラストレーター中川学
さんの迫力あるパネル、芝山さんが
お茶会の為に制作した棗や茶杓、生
首などで表現された『天守物語』の
ちよつと不思議な世界感をテーマに
開催された一風変わったお茶会。流
派に囚われずにお茶を楽しむ鶴泉会
の皆さんによるお点前。大樋焼きの
お茶碗、吉はしさんのお菓子でも
てなされました。夜の席では、蠟
燭の灯りが揺れる幻想的な雰囲気
の中、泉鏡花記念館学芸員の穴倉玉日
さんによる解説や芝山さんのちよつ

とびつくりするような演出など、ま
たないお茶会となりました。



今年で改築の為に取り壊しとな
る森山町小学校校舎。校舎へ

感謝の気持ちを手形アートとして形
に残し境内に展示しました。在校
生、卒業生約千人分の色とりどりの
手形。同級生や恩師などの手形を探
したり、松永さんのかき氷を手形に手
形を見上げながら昔を懐かしんだり
りとゆつたりとした時間が流れまし
た。その他、台湾から参加の方靖さ
ん、福井の和紙造形作家のかとうこ
づえさん、大学生の秋本美幸さん、
ZZYMAさん、市川美咲さんの作
品の展示やワークショップやお寺体
験など二千人を超える来場者があ
り、その様子がテレビ・新聞・ラジ
オなどで広く伝えられました。



『天守物語』
を題材に芝山
佳範と森山町
小三年生が制
作した色とり
どりの手毬。

午後4時からはじまったお茶会、
6時半の席のみ泉鏡花記念館の穴
倉玉日さんの解説やちよつと不思
議な演出、さらにお菓子などもス
ペシャルな詠え。鏡花の世界を堪
能しました。



鶴泉会による御点前

8/26
(土)

「天守物語茶会」

今回のお茶会
のために制作
された茶杓と
棗。沈金師芝
山佳範作。
茶杓には物語
に登場する秋



の七草、棗には
獅子頭を沈金や
漆で装飾。その
他、3Dプリン
ターで出力した
生首も制作。



幻想的な雰囲気のお茶会

「しまんと新聞ばっく

8/27
(日)

ワークショップ」

エコでデザイン性や機能性にも
すぐれるしまんと新聞バック。し
まんと新聞ばっく金沢支部の皆さ
んが丁寧にご指導くださいました。
参加者は各々好きな絵柄の新聞を
選んで世界で
一つだけの素
敵なバックを
作られていま
したよ。



9/2
(土)

「コーヒー 飲み比べ講座」

毎年恒例のコーヒ講座。今年も
講師にアリーカフェ代表、有延宏
之さんをお迎えしました。

これまでのハンドドリップ講座、
ラテアート講座に続き、今回はコー
ヒーの飲み比べ。産地の異なる6
種類のコーヒーを比較しながら
楽しみました。ペーパーの種類を
変えて味の変化を楽しむというマ
ニアックなご指導もあつたりと充
実した時間となりました。



「沈金箸づくり教室」

9/3 (日)

輪金塗の加飾技法のひとつの沈金。講師は沈金師の芝山佳範さん。お箸に針で模様を彫り、その溝に金粉を埋め込みます。とても細かく繊細な作業の為、皆さん黙々と作業に集中。とても貴重な体験となったようです



「おみがぎ体験」

子供たちに仏具磨きを経験させてあげたいと親子で参加。一生懸命磨いてピッカピカにしてくれました



中川学



「天守物語」芝山佳範&小学生&中川学



方靖



かとうこづえ



ZZYMA



市川美咲



森山町小同窓生



森山町小三年生のみんな



秋本美咲



本堂では「天守物語」を題材とした作品の他、今年のオテラートのテーマである「破壊と創造」を題材とした様々な作品を展示。
境内には森山町小同窓生千人による手形や、連日大盛況だった松永さんのかき氷、ヨーヨー釣りなど縁日も開催。

撮影：東幸人

「蓮如御影道中」

四月二十二日

二十三日

蓮如御影道中に浄光寺より田中一雄さんと松島晋さんが参加され、全行程十五日のうち武生から吉崎御坊までを二日間かけて御影を引き歩きました。

◎参加者の声・其一

以前より、御影道中にいつか機会があれば参加してみたいなと思っておりました。しかし、仕事の都合を考えると、なかなか実行できなく



撮影：松島晋

今日に至っておりましたが、七十歳を目前にした本年、松島さんと義弟の川端さんにお誘いしたところ、お二人からも快諾を受け御影道中に参加することを決心しました。

二十二日、素晴らしく晴れ渡った朝でした。元気一杯！意気揚々と御輿の綱を握り武生の皆様方と共に浄秀寺を後にしました。福井別院までの23kmの距離、各会所での御もてなしや、佐竹教導のお話、最後の全員で恩徳讃の唱和に感動、「蓮如上人様のお通り」のおふれで、御影に手を合わされる沢山の人の姿に信仰心を感じました。道中の水田の輝きや青々とした山並みを満喫しながらだったので疲れを感じる事もなく福井別院に到着のはずでした。...

いざ参加して思わぬ大きな障害がありました。それは歩くスピードが、一人で行っていたトレーニングの時と違って非常に早いことでした。だんだん息は切れ、胸は苦しくなり、ただひたすら脱落しないように、迷惑にならないよう

にと、必死に歩きました。会所やお寺でのご法話の時には回復するも、歩き出すとまた辛くなる繰り返しでした。

午後8時過ぎに福井別院に到着後、最終日前日ということ夕方時には酒肴の席が設けられました。参加者は大分、愛知、千葉といった全国各地をはじめ、遠くは米国カリフォルニア州から三名の女性に参加されていました。参加者の方のいろいろな体験などをお聞きして大いに盛り上がりその時だけは昼間の不安を忘れました。

最終日は吉崎御坊まで32kmの距離、会所の他に親鸞聖人御旧跡地・関の石団子・嫁威し谷等を巡り、歩くことでしか見られない花に目がいく心をなごまされる有難い経験を得、最終会所である細呂木からは提灯の先導を受け、更にその後は吉崎別院からの大提灯行列の迎えをうけ、暗闇の山道を黙々と進むさまに感動、吉崎消防団員に担がれた御輿が石段を駆け上がる様子に感動し、この行事に参加させて頂いたことに感謝を覚

■納骨壇を増設

この度、本堂地下の納骨壇を四十八区画増設いたしました。これまで空きがなかった中段も選ばいただけるようになりました。これからのお墓としては是非ともご検討ください。



■ホームページをリニューアル



えました。

これまでの人生の中の、たった二日間の出来事ではございましたが、このような衝撃的な体験をさせて頂きましたことを、御影道中を支えていただいた皆様に感謝いたします。

白山市 田中一雄

◎参加者の声・其の二

三月に門徒の仲間から御影道中に参加の誘いで、七日間の内、二日間だけ参加させていただきました。初日、二十二日は武生、浄秀寺、朝七時に浄秀寺の御輿に御影を御納になされ、出発時には「蓮如上人様、浄秀寺様をお立ち」との声と共に立出しました。綱を引くのは、新人が先頭になって力強く早く引つ張る様に言われ、位置について歩く。次のお立ち寄り会所への道中で、綱引きより五十メートル先に行き、「蓮如上人様のお通り」と叫びスピーカーで流し歩く。これを聞き玄関先に出てこれれ手を合わす。また走って来て御布施を手渡し拜んでいる。それだけ信心深く感じられた。綱引きの供奉人に「ご苦労さん、頑張って、気



撮影：松島晋

を付けて」と、声を掛けられ、本当にありがたいと思い、「ありがたいございました」と叫び返すのでした。お立ち寄り会所到着時間が決まっているので大股で引つ張り歩く。会所では準備や接待でご苦労を掛けありがたく思います。

二十三日は最終日、福井別院の出發は午前七時三十分で吉崎御坊には午後八時頃に到着する予定です。夜道、提灯を持って山道へと向かう。山道は石ころや砂利やぬかるみ等暗い道でわからず登ったり、下ったり、ひたすら急ぎ足で歩き続けると途中で提灯の明かりが五、六本近づいて来た。吉崎別院より迎えに来られ

たこのことです。吉崎に近づいて来たと感じ、頑張り歩き続けると、下の方に明かりが見えて来た。進むにつれて人波が見え、提灯を持った人たちの中へ割り込むように入っていく。御影から離れるまいと付いて行くが人波に揉まれて付いて行けず、どうにか本堂まで行く。御影の御開帳を初めてのご拝見をさせていただきました。法要法話も済み、これで終わったと思っていると、浄光寺の住職と門徒の三人により金沢から私たちを迎えに来られたことを知り、御礼の挨拶をする。

終わって振り返ってみると、最初から誘いにより、いろいろな人と出会い、話をし、教えられかけがえのない経験させていただくことができました。



た。これはご縁があつてのことだなと思う。自分中心でなく、周りの人たちによって自分が成り立つというのを気づかされるご縁となりました。

金沢市 松島晋

蓮如御影道中とは

御影道中は、蓮如上人の没後、北陸での教化のご苦労とその徳を偲んで吉崎御坊（吉崎別院）で厳修される御忌法要に、上人の御影を本山よりお迎えして勤められたのが始まりであると伝えられています。以来、上人が歩いたといわれる約二四〇キロの道程を、随行教導や、宰領をはじめとする供奉人方が御影と共に歩む御仏事として三百年以上の間連綿と続けられています。道中は、真宗本廟における御下向式（四月十七日）に始まり、約一四〇箇所の会所に立ち寄り上人の御教化にあわれながら、御帰山式（五月九日）をもって終了します。

小学生×立川志らら×浄光寺

第五回 ちりらるる

五月十二日(金)
十四日(日)

法話 浄光寺住職
落語 立川志らら

五月 月六日～十四日まで二週に渡り五日間の日程で十六カ寺を

会場に「第五回おてらくご」が開催されました。今回は公演回数、落語家さんの数も拡大。最近テレビでも活躍されている立川志らくさん、弟子、立川志ららさんと笑福亭鶴瓶さんの弟子の笑福亭瓶二さん、そして二年ぶりの登場となる立川吉幸さんをお招きしました。落語を縁に気軽に仏法に触れていただければと開催してきた「おてらくご」ですが、今年も千五百人を超える多くの方に参加いただくことができました。昨年同様、一般向けの公演の他、森山町小・馬場小・浅ノ川小の三校も課外授業として参加しました。

十日 二日、午後二時、毎年恒例の小学生招待の時間。今回も森山町小学校の四年生と五年生が約



一二〇名が本堂で落語を楽しみました。例年通り「正信偈」の唱和と法話と落語の順に進行。先ずはお参り。「正信偈」を知らない子も多かったようですが、少し戸惑いながらも一生懸命声を出してくれました。続いて住職から「いのちをいただく」ということについてお話がありました。仏法の後はいよいよ落語の時間。浄光寺では毎年小学生が落語をすることが恒例となっており、昨年に引き続き坂井君（六年生）が立川志ららさんの前座を担当。リハーサルで志ららさんの指導を受けた坂井君、



さんの声が枯れてしまうほど大盛り上がり、賑やかな二時間となりました。

桂小春団治の創作落語「冷蔵庫哀詩」を見事に披露し、子供たちに大うけ！志ららさんもその吸収力に驚かされていましたよ。坂井君の後は、真打志ららさんの登場。「ちりとてちん」、「松竹梅」を披露してくださいました。最後の質問タイムまで終始大爆笑！志らら

平成30年回忌表

- 一周忌・・・平成29年(2017年)
 - 三回忌・・・平成28年(2016年)
 - 七回忌・・・平成24年(2012年)
 - 十三回忌・・・平成18年(2006年)
 - 十七回忌・・・平成14年(2002年)
 - 二十三回忌・・・平成8年(1996年)
 - 二十五回忌・・・平成6年(1994年)
 - 二十七回忌・・・平成4年(1992年)
 - 三十三回忌・・・昭和61年(1986年)
 - 三十七回忌・・・昭和57年(1982年)
 - 五十回忌・・・昭和44年(1969年)
- ※()内の年忌法要を勤める場合があります。法要のご依頼はお早めに。



素敵なリーフレットができました
イラスト 中川学・デザイン 泉屋宏樹



十日、午後二時から是一般の方が参加。今回はじめて日曜日の開催となりました。約一二〇名のご縁がありました。小学生の部と同様、まずは「正信偈」のお勤め。続いて住職の法話。金子みすゞさんの詩を紹介しながら命を傷つけずには生きられない私たちの在り方について話がありました。続く落語の時間では立川志ららさんが登場。古典落語の「狸の札」と「宮戸川」で皆さんを笑いの世界へと誘い、本堂が笑い声で包まれました。

年中行事

「除夜の鐘」・「修正会」

大晦日・元旦



撮影：野関哲也

深遠なる鐘の響きと共に新たな年を迎えました。本堂では修正会が勤まり、皆さんと一緒に、私たちの出発点と現在地を確かめました。

また篝火が揺れる境内では温かい食べ物や飲み物の接待もあり、身も心も温まりました。

「お太子さん」

三月二十日

鈴木大拙館館長 木村宣彰



撮影：田中一雄

十五年に渡りご縁をいただいている木村宣彰先生をお迎えして、聖徳太子御忌「お太子さん」が厳修されました。当日のみ御開帳となる聖徳太子御木像を前に聖徳太子のおめぐみをあらためて確かめました。ご法話では、太子が残した三つ言葉、親鸞聖人の夢告などを通して念仏者の信心をたずねました。今回のご法話は『結草』②④号に纏めてございます。是非とも熟読下さい。

「追弔会」

八月十三日

円覚寺住職 菅原貴之



八月十三日、旧盆に合わせて「追弔会」が執り行われました。亡き人が残された私たちのために開いてくださった法会「追弔会」。大切な人を亡くされた悲しみをくぐりぬけて聞こえてくる声に耳を傾けました。ご法話は、滋賀県竜王より真宗仏光寺派円覚寺住職、菅原貴之師を迎えました。ご法話では「呼びかけられていること」について、親鸞聖人の御言葉を通して皆様と考えさせていただきました。

「報恩講」

十月十七日・十八日

道因寺住職 相馬 豊

十月十七日、十八日の両日、当寺「報恩講」が厳修されました。報恩講に先立ちまして十月九日には「おみがき」が行われ、汗が流れるほど一生懸命に仏具を磨き、みんな仏さまのお手伝いをさせていただきました。皆さまのお力添えもあり、おかげさまで報恩講をお迎えすることができました。

報恩講、「速夜」並びに「日中」のご法話は、相馬豊師（白山市道因寺住職）。長年に渡り教導を勤められている蓮如御影道中（本誌4・5ページ参照）に触れながら親鸞聖人



や蓮如上人のご苦勞と恩徳に思いを馳せました。また、ご法話の後には、心のこもった手づくりのお齋を皆でありがたく頂戴いたしました。

「初夜」では、DVD『七高僧ものがたり』を上映。お念仏の教えを親鸞聖人、そして私たちのところまで届けてくださった七人の高僧の生き方を通して人間の迷いの深さに触れながらお念仏の教えをいただきました。



日帰りバス旅行♪

実施日 四月一日（日）

参加費 一万二千円程度

締切り 三月二十一日

お誘い合わせお申込みください。

ご一緒に東本願寺「春の法要」（親鸞聖人御誕生会）に参拝しませんか。当日は音楽法要が勤まります。昼食は本願寺の別邸、涉成園（枳殻邸）にてお齋（粥善）をいただきます。その他、聖人誕生地、日野の法界寺を訪れます。春光うらかな好季節、皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。



一年中行事

- 一月「修正会」元旦（午前0時）
- 三月「お太子さん」彼岸中日（午後一時）
- 七月「孟蘭盆」十三日～十六日
- 八月「追弔会」十三日（午前十時）
- 十月「報恩講」十七日（午後一時半・七時）十八日（午前十時半）
- 十二月「除夜の鐘」大晦日（午後十一時半）
- ※毎月二十八日「きこまいげ」（午後二時）

行事のご案内

「お太子さん」

日 三月二十一日（祝）

時 午後一時

法話 木村宣彰師

（鈴木大拙館館長）

万障繰り合わせの上、ご参詣くださいますようよろしくお願い申し上げます。

■三月二十八日より「きこまいげ」を再開いたします。